

山形県地域密着型サービス自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

※項目番号26 馴染みながらのサービス利用
項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所のみ記入してください。

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 三友医療
（ユニット名）	さんゆうグループホームふいりあ
所在地 （県・市町村名）	山形県米沢市万世町桑山4660番地
記入者名 （管理者）	遠藤秋子
記入日	平成 19 年 8 月 30 日

山形県地域密着型サービス自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を全職員間で確認しあい、地域のなかで安心して暮らしが出来る様な理念を掲げている。毎朝朝礼で唱和している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	食堂の見やすいところに運営理念を掲示しており毎朝ミーティングのなかで唱和しており確認しあうようにしている。会議のなかでも理念にふれ日々の中で反映させている。(態度、言葉使いなど)	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営理念を通信に織り込んだり訪問時、面会時などに触れている。地域行事に参加したときにパンフレット等でお話させていただいたり薬局さんにパンフレットを設置していただき理解をしてもらおうべく取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に挨拶を交わす等しており花や野菜をいただいたりしており、ふいあからもおすそ分けをお持ちしたりお付き合いさせていただいている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区のお祭りには積極的に参加しており、パーマやさん、スーパーを利用しており交流をはかっている。犬の散歩の途中で立ち寄ってくれる大人や子供達もおふりあのある行事には地域のボランティアも受け入れており地元との交流をする事に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域主催で開催する公民館などでの研修には職員が積極的に参加し高齢者と触れ合う機会を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議などでサービス評価の目的、意義について説明しており、評価には全員で取り組むようにしている。評価結果は会議等で全員に報告をし、意見を出し合い職員のアイデアをいかし改善に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議で提案された項目などについて報告しあい、サービス向上につなげていく姿勢で(自分達のカラーをもちつつ)取り組んでいる。今取り組みの中で力をいれて取り組んでいることなどもお話し、意見を貰うようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員をお招きし介護保険についての勉強会を開催し(事業所全体で)意見の交換、相談などさせていただいている。書類の提出や、介護相談員を受け入れている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の研修には積極的に参加し会議等、また折に触れ職員へ説明している。(該当するケースはまだない)		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内勉強会においても虐待防止法に関する学びをしており、おりにふれ話し合いをし防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明書を読み上げ家族の同意をえている。特に料金、おこりうるリスクについての対応は詳しく説明している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を1回／月受け入れており利用者の相談があれば相談にのっていただくようにしている。何かあれば何でも気軽に書いていただけるよう様式を設置している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1ヶ月に1度通信を発行し暮らしぶりや健康状態などを写真を添えて送付している。金銭管理についてもコピーをとり添付している。これに限らず電話でのやり取りや面会時にも最近の状態、様子などお話し金銭管理簿を確認していただいたりしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には職員とも話しができるような雰囲気づくりを心がけており(忙しそうに行動しないなど)、契約時は相談窓口があることを説明しており事業所内だけでなく外部などにも相談窓口があることくをお話している。パンフレットなどもお配りしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図る心がけをしており問いかけ聞き出しをしており会議では全員が意見を出しやすい雰囲気(テーブルの設置や位置関係)にしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	できるだけ利用者の自由な暮らしを支えられるように柔軟に職員の配置を考えている。勤務でなくてもなにかあればすぐにとんで来ることができる距離に職員もおり協力的に対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるよう配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの職員が対応することは大切な事と考えているのでできるだけ引継ぎの時間を多く持つように心掛けている。(正式配属になる以前からシフトに入っており前任者との引継ぎにも時間をとっている)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所全体の勉強会を定期的に1回／月、3時間(交互に全員参加できるように2回設定)開催しており定期以外にも保健師をお招きしたりその都度必要に応じ開催しており研修報告書を作成している。事業所外で開催される研修にもできる限り参加しており事業所全体の勉強会の中で発表の場を設けており全員で共有している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会や地区ブロック協議会での学習会に参加し、交流を図っておりテーマに応じて交代で参加するようにしている。	○	他事業所への実習の経験が少ない為訪問活動を通じサービス向上につなげていきたいと考えている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	会社主催の親睦会があり、又事業所内でも食事会等設け気分転換を図るようにしている。一人になれる休憩室も確保されている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が向上心を持って働けるように能力評価を行っており、資格取得に向けた支援おこなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談で生活状態を把握するように努めており、ご本人の求めている事不安など解決するべく工夫している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来所されたおりににはゆっくり困っている事、悩みなど十分聞くように努めている。家族が求めているものを理解しどのような対応ができるか事前に話し合いをもっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等確認し必要なサービスにつなげるようにしている。		
26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるという考えを全員で共有しており学ぶ姿勢をもち穏やかな生活が出来る様に場面づくりや声掛けをしており、側に寄り添って喜怒哀楽を共にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子や職員の思いを通信や面会時に、遠い方は電話などでつたえている。	○	家族が職員に介護をゆだねきりにならない様に、職員が抱き込んでしまう事を防ぐ。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族も参加できる行事を設定しておりご案内をさしあげお誘いをしている。面会時は本人と家族の潤滑油になるよう心掛けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	遠方に暮らされている娘さんとの手紙のやり取りなど継続していけるように支援している。手紙を書かれたときは職員と一緒に郵便局まで出かけ投函してきている。地域に暮らす親戚の方がいつでもお出でいただけるようにしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	関係性についてはすべての職員が情報を共有しておりその時々を注意深く見守っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	終了した利用者や家族とお会いした時等はいつでも遊びにきていただけるようこえかけをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人に寄り添う時間を大切にし日々のかかわりの中で声をかけ表情を伺い把握するように努めている。意志疎通が困難な場合は家族等からの情報を得るようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮し事前面談し、生活歴などをお聞きしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族等の情報にとらわれず一日の行動の中から全体像を把握するように努めている。一見問題と思えるような事が本人の立場にたつと意欲の現れであったりできる力と判断できることがありそのような力を見極める様心掛けている。		
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人の生活機能や健康状態精神的状態をスタッフ間で話し合い、必要事主治医の意見を元に家族と職員で担当者会議をもちプランにとりいれている。ご本人の希望を大切にプランを取り入れる努力をしている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態が変化した時は職員間で話し合いを持ち対応している。またそのことで家族に連絡し必要に応じて関係者のアドバイスをいただいてプランに取り入れる努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員と常に話し合い工夫しながら対応している。担当者会議にもそれぞれのきづきを話し合い介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、公民館、図書館、その他公共施設などの協力を得ながら支援している	地元警察(交番)にもお邪魔させていただき理解を求めたりしております。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や生活支援上の必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、介護保険外も含めて他のサービスを利用するための支援をしている	希望により市で主催の催し物などに見学などに行ったり他の事業所のイベントに参加させて頂いている。(オカリナコンサート、ヨサコイソーラン踊りなど)		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議などに地域包括支援センターも入るようになりこれを機に強化されることになった。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所協力医の他、本人や家族が希望する馴染みのかかりつけ医になっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医の往診時利用者の状態を伝えて支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診時いつもきていただいている看護師に日常の健康管理のアドバイスを頂いています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は頻繁に職員が見舞に行くようにしておりダメージを極力防ぐ為に担当医の説明、退院時の面談を行なっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は職員、家族、医師をふくめた話し合いを持つようにしており指示を仰ぐようにしている。事業所が対応しえるケアについて説明している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族や医師又、スタッフ間で話し合いケアについて検討する体制にある。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の施設や居住に移られた場合は支援状況等の情報を提供したり情報の交換や馴染みの職員が訪問などするなどしダメージを最小限に食い止めるようにつとめている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々のかかわりの中で利用者の誇りやプライバシーを傷つけないよう言葉遣いには十分気をつけ幼児言葉にならない様に会議等のなかで職員の意思向上に努めている。誘導時などには耳元で声をかけるように配慮している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	複数の選択肢を提案し自己決定できるよう心掛けている。 (お茶の時間の飲み物や、買物、献立を作るとき、衣服の選択など)		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	目安としている一日の流れはあるものの時間の区切りはなく本人のペースや体調に配慮し食事の時間、入浴の時間など希望があればその都度希望に応じている。利用者や職員のかかわりの時間もできるだけ多くもち、梅酒なども見守りながら楽しんで頂いている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替えは選択してもらい本人に決めて頂いている。外出、行事などには本人の希望をお聞きし化粧やおしゃれを楽しんでいただいている。本人の希望される美容院を利用している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の意見をお聞きしたり、相談したりして決めるようにしており、包丁さばきをする人、盛り付けする人、食器を洗うなど職員と共に同じテーブルを囲んで食事を楽しむようにしている。季節の食材などとり入れ、昔の話なども話題にしながら楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は一人一人の嗜好品について把握しており他の利用者に迷惑ならないように入浴後などに楽しめるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の状況に応じチェック表を作成しており排泄パターンを把握し耳元で声掛けをし個室となるスペースで確認している。できるだけトイレで排泄できるよう支援している。夏場は布パンツを使用したりしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	目安として曜日や時間帯はあるがその方に合わせた支援をしている。入浴を楽しんでいただけるように希望を聞いたり順番に工夫をしたりしている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中活動する場面を増やす工夫をし、生活リズムを整えるようにしている。一人一人が必要な休息の支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人の得意分野を尊重し役割分担をし力を発揮してもらえるように支援しており常に感謝の意を伝える様にしている。(梅干し作り、外の掃除、裁縫、花を摘んだり草をむしる方など)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支払いの際預り金を手渡しできるだけ自分でできるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園に出かけるだけでなくお天気の良い日はホーム前の広場に出て食事をするなど外に出ることで季節感を感じていただき		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生会等で本人の希望をお聞きし計画を立て願いをかなえるよう出かけたい場所に出かけていき職員とゆっくり一日を過ごして頂くなどしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使える状態にあり希望あればいつでも対応する状態にある。手紙が届いたときは返事を書く様に促しかかれたときは職員と出かけポストに投函するようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問していただけるように場所、時間等の設定はしておらず、気軽にお出でいただけるように自然な形で歓迎しておりゆっくりしていただけるように居室にお茶をお持ちしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を開催しており職員の認識を図っている。(禁止の対象となる行為など)		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる	一人で外に出てしまう利用者にいつでも外に出て楽しんで頂くよう日中は玄関の鍵は開いています。ご本人に常に声かけを楽しく自由に過ごせる様に工夫をしています。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアーにいる職員が見守り、2階で過ごされる利用者には個人に合わせ時間ごとに居室にお邪魔させていただいたり声掛けをしている。その場を離れる時などは必ず職員間の声掛けを実行している。夜間は数時間事に利用者の様子を確認し物音確認すればその都度様子確認に伺っており、居場所に工夫している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況変化によっては注意を促し保管場所を取り決めるなど、対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の利用者のADL状態や心の理解、又薬の知識や投薬時の確認をして事故防止に努めている。予測される危険を検討し事故を未然に防ぐ為の工夫にとりくんでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急方法や心配蘇生の研修を受けており対応出来るように会議の中で確認しあっている。利用者一人一人の既往歴を元に急変時の対応をスタッフが確認している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	利用者にも参加してもらい避難訓練を実施しており(春、秋)誘導、消火器の使い方、避難経路の確認など職員で把握しており運営推進会議で協力を呼びかけている。災害時の対応についても日頃から感心を持つように心掛けている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご本人の主体性を尊重するがリスクも伴い危険である。抑制によりご本人の希望も失うので家族に連絡しその人らしい生き方が出来る様対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェックや食事の摂取状態等により体調の変化を見つけ速やかに情報をスタッフ間で密にして対応に結び付けている。(変化時の記録、医療機関の受診)		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方されたときの薬の能書きを確認し理解している。服薬時療法を守り症状の変化の確保に努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体操や水分補給、食物繊維の多い食事に気を付けて対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人の状態に応じ毎食後モンダミンでうがいをしたり歯磨きをして清潔保持に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を毎日記録しており、職員が情報を共有している。管理栄養士の献立を参考にしており栄養摂取量を把握している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	起こり得る感染症についてマニュアルがあり全職員で学習し予防対策に努めている。毎日朝と夜に手すりや台所等の消毒を徹底しており又手洗い(職員、利用者)うがいに留意している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日まな板、布きん 器具の消毒に努めており冷蔵庫を過信しないように点検掃除を行なっている。食材は状態を確認し冷凍、処分をしている。生ものは火を通しまな板の使い分けにも心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに季節の花や長く楽しめる草花を植えたプランターをおき、又近所の方が立ち寄ってくれた際一息つけるベンチやテーブルを置いている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆で楽しんだ思い出の写真や利用者が屋外から摘んできた花をかざったり、食事づくりのにおいが立ち込めたり、食器の洗う音が聞こえたりと五感や季節感を感じ取れるように工夫をしている。共有スペースにその季節の飾りつけなど設置するようにしている。(七夕、お雛様など)		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファをおいてその場ですごして頂いたり読書が楽しめるスペースを設け花や縫いぐるみ等おき一人でくつろいだり気の合う仲間と過ごす居場所を工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使っていたタンスや使い慣れた椅子、写真や日用品など持ち込まれており生活スタイルもご本人に合った居心地のよさに配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホールは一定の時間に換気をしており利用者の状態に応じ外気温と大きな差がないよう調整をおこなっている。(冷暖房)		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、風呂場、玄関に手すりを設置しており転倒がないよう移動ができるようにしている。物干しの高さ調整し自立と安全確保へ配慮している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	不穏にならないよう、ゆっくり、わかるように対応している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	屋外のスペースに花を植えたり収穫できる野菜を植えている。テーブルや椅子を設置しておりひなたぼっくや夕涼みなど自由にできる工夫をしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
		○	③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

創設以来鍵をかけないことに重点を置きそのようにすすめてきた所でした。今年3月に入所された方が環境や人間関係に馴染めず不安、あせりをいだいており入所当座から急にホームを飛び出していき途方にくれたり職員に暴言をはいたりする行為が繰り返されていました。入所当座は一部の時間にかぎり鍵をかけざるをえない状態でした。しかし何とか鍵をかけない工夫を職員全員で話し合いを重ね対応をしてきました。最近は昔のように鍵をかけない開放されたホームに戻っています。ご本人も出かけるときなどは「ちょっといつてくるから」など職員に声をかけてから外に出たりホームの周りで花をつんでもちかえったりしておられ落ち着いた生活を送られています。